

やすらぎ

医療法人社団 芙蓉会
ふよう病院
千葉芙蓉病院
きゃらの樹ケアセンター



芙蓉会社内報

令和2年2月号

芙蓉会

理事長挨拶

医療法人社団 芙蓉会 理事長 四ヶ所 大

現在、猛威を振るっている新型コロナウイルスへの対策として、東京都町田市及び千葉県君津市にて運営しております病院、老人保健施設他、全ての施設・事業所を面会禁止とさせていただきます。ご協力、ご理解のほど、お願い申し上げます。なお今後の動向につきましては、当法人のホームページにてご確認いただければ幸いです。

このように日々状況変化も考えられるところではありますが、昨年12月に報告させていただいたとおり、町田市のふよう病院では、3月1日からB2病棟を医療療養病床に、4月1日からB3、C3病棟を介護医療院に、予定どおり転換して参ります。

さて、親交のある経営者の方で、数年前から毎年カレンダーを送ってくださる方がいらっしゃいます。それも毎月送ってくださる絵葉書をカレンダーに差し込むという凝ったタイプのもの。宛名からコメントまで社長自らの手書きで、自分には真似のできない事だと、毎月感心させられております。

立場上、様々な方とお会いする機会に恵まれておりますが、ビジネス的な商談で重要視しているのが、いざという時に信頼できる相手先であるかどうかです。以前、営業熱心な医療事務機器の担当者がおり、現場サイドからの要望も



あって事務機器の入れ替え時にこの業者を採用しました。しかし「いつでも呼んでください」との売り込みも空しく、トラブル時の対応は皆無。しかも契約後数か月で担当者は退職してしまい、その後の対応に四苦八苦した事がありました。事務スタッフ自身、保守契約に関連する契約内容の重要さを身に染みて理解できたようでしたが、苦い経験の一つでした。

SNSの普及で、年賀状はおろか、対面でのコミュニケーションまでもが減っているという時代背景の中、どのような方とどのような付き合いをしていくべきか。手書きのコメントを読みながら、ビジネスの手法は奥が深いと改めて感じております。ちなみに2月の絵葉書は「ニコニコ笑顔でいたら仕合せがやって来た…ツイテルツイテル」新型コロナウイルスの早期収束を願うばかりです。F社長、毎月ありがとうございます。

「老人は国の宝」

医療法人社団 芙蓉会 (事業所一覧)

- ・ふよう病院
- ・芙蓉ミオ・ファミリア町田
- ・グループホームあおぞら
- ・デイサービスふれあいルーム
- ・千葉芙蓉病院
- ・きゃらの樹ケアセンター
- ・千葉芙蓉ハーモニー
- ・千葉芙蓉ステーション



院内研修会報告 1月開催

「終末期医療を考える」～エンドオブライフ(ターミナル)ケア～

発行者 ふよう病院 佐藤院長

今回は、看取りを伴う終末期医療に携わっている職員の「心の持ち方」について話をされた。仏教の「布施」をはじめとする教えから、患者様に寄り添うことの意味を知り、職員一人ひとりの死生観によってケアが変わってくることと、科学的見地からオキシトシン（身体と心を健康

にするホルモン）とケアの関係を説明され、相手に「～してやった。」という気持ちでケアをすることなく、相手の思いに寄り添い「相手を幸せにすることが、そのまま自分の幸せになる。」ということを中心とめてほしいと結ばれた。



栄養科だより

令和2年1月6日、お祝い膳として昼食に提供しました。三が日を過ぎてしまいましたが、少しでも患者様にお正月気分を楽しんでいただけたらと毎年行っています。お重にみたてた器に、御品書きを添えてわかりやすいように工夫しました。



咀嚼・嚥下が不自由な方が多いので食べやすい形状にします。花魁、れんこん、かまぼこ、エビなど一部の食材はソフト食に置き換えました。ソフト食は形がしっかりしていて見た目もきれいなのに、柔らかく食べやすいというメリットがあります。

お重 さか し お し な ま す	紅白 なます	花魁 れんこん	えびの チリ ソース	お正月 お祝い 膳 
	かぼちゃ の煮物	ぶりの 照焼き	かずのこ かまぼこ	
	黒豆	栗 きんとん	紅白 羊羹	

1月院内研修会

個人情報保護法について

発行者 佐藤事務長

個人情報の保護はモラル上、必要なのはもちろんですが、医療法において必要と決められています。

情報機器による情報漏えいが心配されるようになりました。PC本体や記録媒体（USBメモリー、FD、CDR等）の「盗難・紛失・置き忘れ」です。社外に持ち出さないのが基本ですが、パスワードの設定なども必要な対策です。また具体例として、患者様について親しい方から問い合わせがあっても軽々しく答えてはいけない、などの話題もありました。

医療従事者は守秘義務を認識しているのが原則ですが、基本に立ち返り、各職員が守れるように努めましょう。



きゃらの樹ケアセンター イベント報告

書初め

令和2年となり、老健では3回に分けて各階で書初めを行いました。最初は「私はやらない」と言っていた方にも粘り強く声掛けをした結果、計30人のご利用者が筆を持ってくださいました。普段、字を書くことが無いにもかかわらず、ご覧のとおり立派な書道作品ができあがりました。



餅つき

恒例の餅つきを行いました。有志を募ると、普段は歩行器をご利用の方でもご覧のように腰の入ったフォームで、さすがと唸らせるものがあります。以前は飾りやのし餅など、親戚に配るものを含めると朝から晩まで1日中、きねを

振っていたそうです。当日は咀嚼の関係で、残念ながらつきたてを召し上がっていただくわけにはいきませんでした。餅に近い食感の代用餅をその場で調理し、召し上がっていただきました。

